

私立大学情報教育協会・化学教育 FD.IT 活用委員会
平成 21 年度第 5 回委員会議事録（案）

日時： 2010 年 1 月 18 日（月） 16:30－18:30

場所：私立大学情報教育協会事務局会議室

出席者： 伊藤（委員長）、堀合、庄野、小林、幅田、木村（文責）

事務局： 井畑、森下、恩田（敬称略）

1. 議事録承認

平成 21 年度第 4 回委員会議事録案が提出され、承認された。

2. 議事

(1) 伊藤委員長の開会挨拶

(2) 資料の確認

(3) 本日の議事録担当決定

(4) 事務局よりの答申報告と本日の委員会の協議内容が提示された。

(5) 化学教育における情報教育について到達目標が二件、とその到達度について協議され、まとめた。

(6) 次回の委員会の開催の日程は 2 月末から 3 月初旬とし、いつものように MAIL で日程調整を行うこととした。

(7) 伊藤委員長がご都合で、退任されることが報告され後任について検討した。

3. 協議内容

(1) 事務局よりの報告と協議内容の説明

昨年 12 月に文科省へ「本協会による分野別教育の学士力考察の報告と提言」を報告、その協議内容が報告された。

また分野別目標が纏められたので本協会の本来の目的であった「教育改善のための情報通信技術の活用研究」と「分野別学士力を実現するための情報教育の改善研究」について、二面性の今回の纏めはスタート点であった。ついで分野別学士力を実現するための資質として、情報教育委員会および分科会を作成し、情報教育の研究を進める。情報非専門分野別教育分科会理学系の中に化学の小委員会が出来るとの予定であるので上部の分科会に連携するため本委員会として基本的なことは決める。本日は到達目標と到達度を決定について、この委員会の担当である化学分野が提案した 3 つについて共通的なもの決定し、今年度末までに後者をまとめる。

(2) 到達目標二件とその到達度

前回の委員会後 MAIL にて提出された課題について、各委員から説明があった。

委員から提出された草案の中で化学系に特化しない、いわゆる情報教育基礎の部分は分野に限らず共通な部分なので除くこととし、化学教育に特化したものとする事とした。各委員から提出されたものは大枠一致しており、情報機器の利用活用はブラックボックス的使い方だけではなく、データの収集（情報検索、MD、MO などを含む）分析、評価、纏め、報告が含まれていることが確認された。その上で到達目標を「化学の基本的な学習」と「化学の専門的な学習」にわけて検討した。

「化学の基本的な学習」を到達目標 1 として、その到達度を以下の 4 項目とした。

基本的な分子情報の収集、解析、

- ①化学の信頼できる情報の所在等を理解し、必要な情報を収集できる。
- ②収集した情報を整理し、資料作成及びプレゼンテーションに適切に活用できる。
- ③分子構造を描画できる。
- ④実験データの整理、統計処理、図示ができる。

「化学の専門的な学習」を到達目標 2 として、その到達度を以下の 3 項目とした。

- ①化学の専門的なデータベースを適切に使用できる。
- ②分子計算ソフトを用いて、分子の性質を理解できる。
- ③得られた各種のデータを解析し、評価できる。

(3) その他

ウィキペディア、著作権やいわゆるネチケットといわれる件についても検討された結果、到達目標 1 の②にある「収集した情報を整理し、資料作成及びプレゼンテーションに適切に活用できる」の中に含まれるものとした。

計測制御や計算ロジック、PC とのインターフェースなどについて検討された結果、到達目標 2 の③の「得られた各種のデータを解析し、評価できる」の中に含まれるものとした。

4. 伊藤委員長の退任の挨拶がおこなわれ、後任についての提案があり化学工学系担当者として創価大学松山達志氏を推薦され、承認された。次回は任期の問題があるので松山氏はオブザーバとして出席いただくこととした。次期委員長の決定は次回行う。それまでは及川副委員長が代理を勤めることとした。
5. 次回の委員会までに、「教育内容・教育方法」について、今回と同様に草案をあらかじめ MAIL で事務局に提出し、効率のよい委員会運営とすることとした。

以上